

水の大切さ

枕崎市立立神中学校

三年

鮫島さめしま

花音かのん

私たちが生きていく上で、絶対に欠かせないのは「水」です。人間は、水と睡眠さえしつかりとっていれば、たとえ食べものがなかったとしても二、三週間は生きていられると言われています。しかし、水を一滴も摂らなければ、せいぜい四、五日で命を落としてしまうことになるそうです。人間が生きていくために必要な水は、一人一日三リットルですが、このわずかな水が手に入らず、世界では約七億人の人々が苦しんでいます。

水は、人間だけでなく地球上のあらゆる生き物のとって、欠かすことのできない大切な命の源ですが、日常の中で水の大切さを実感することは、あまりないのではないかと思えます。私自身、大切だと頭で理解していてもその大切さを意識したことはありませんでした。しかし、あることをきっかけに、意識が変わるようになったのです。

私は、うさぎを飼っています。普段は丸くなって寝ていることが多いのですが、ご飯やおやつ音が聞こえるときかけ寄ってきて、私の周りをぐるぐる走り回ります。ぐるぐる回るのはうさぎの喜びの表現です。その日もいつものようにご飯をあげましたが、全く食べようとしません。大好きなおやつをあげても、だめです。何かを訴えるかのように、鼻先で私の足をつつくばかりでした。動物病院の先生から、うさぎは丸一日食べないと病気になって死んでしまうと言われていたので、とても心配しました。いろいろな原因を探り、ようやく判明しました。水のせいです。給水ボトルの不具合でノズルから水が出なくなっていたのです。水が出るように直すと、五分位ずつと水を飲んでいました。たっぷり水を飲んだら、何事もなかったかのようにご飯やおやつを食べ始めましたこの時に初めて、水の大切さの本質を理解できた気がします。

水の大切さは理解しましたが、やはり意識

しないと忘れてしまいがちです。なぜなら、私たちの住む日本では、水は簡単に手に入るからです。どこにでも水道があり、蛇口をひねると水が出てくるので「飲み水に困る」ということはあまり考えられません。でも世界では水不足が深刻化し、水不足が原因で紛争が起こる場合もあるそうです。私たちには、水不足の問題は遠い国での出来事のように思えますが、それではいけないと思います。

地球の表面のおよそ七十％は水でおおわれていますが、そのほとんどが塩水で、人間が利用可能な水はわずか0.01％しかないと言われています。水は限りある資源です。私たちは料理、歯みがき、トイレ、お風呂、洗濯など生活のあらゆるところで水を使います。私たちが一日に使う水の量は、平均すると一人当たり二百リットル以上だそうです。私は、本当にそんなにたくさん使っているだろうかと思いました。二百リットルといたら、二リットルのペットボトル百本分です。自分で

は、そんなに使っているつもりはありません。でも、水道を一分間流しっぱなしにすると、十二リットルの水を消費すると知って、たった一分でペットボトル六本分も使うなら、一日で二百リットル使っているといわれるのも納得できます。

限りある資源である水を守るために私にできることを考えてみました。例えば、歯みがきの時、コップを使ってうがいをするだけで約五リットルの節水が可能です。このように節水は誰でも簡単にできます。一人の百歩より百人の一步。私一人では五リットルですが、百人が同じようにするだけで五百リットルの節水になるのです。

みんなが、水を大切にすることを常に念頭に置き、それぞれ自分にできることをしっかりとやって行くことが大切だと思います。